

やめられないをやめられるへ

専門家育成の先にある、日本の依存症業界の未来とは

登壇者プロフィール



メインプレゼンター
柴 真也

NPO法人名古屋ダルク理事長
粗暴で酒乱な父と、京都のお嬢様育ち西陣織を営む名家で同志社英文科出身の母との家庭で長男として育つ。非行に走り12歳で補導、その傍ら貧困だった家庭を支える為に小学生からアルバイトをする。義務教育後は自分の夢は諦め、家庭を支えるため就労し定時に進学。成績は学年2位。東芝下請け会社社員、レストラン店長を経て、18才のとき始めた営業職でセールスマンに、入社すぐ売上で東海地区の新人賞受賞。トップセールスマンになるが、働かない父の事で悩み、家計を支える。その頃から楽しみを求めてアルコールや薬物、ギャンブルなどにのめり込んでいく。結果、仕事もできなくなり依存症になる。24才の時、名古屋 DARC でリハビリを受け、社会復帰を果たし営業職、サラリーマンになる。父や友を自死や依存症で亡く、依存症者を助けたいという思いから会社を辞め、沖縄県の依存症回復施設に就職。30才の時、自身の出身である名古屋 DARC の2代目代表に就任。現在に至る。



メインプレゼンター
伊藤 宏基

一般財団法人ワンネスグループ共同代表
一般社団法人 GARDEN 代表
NADAI 認定全米薬物・アルコールインタベンションリスト
ICCE 認定リカバリーコーチ
三重大学卒。自身の回復経験をもとに、当事者や家族の支援を行うほか、各地の刑務所での覚せい剤離脱教育活動に従事。約7年間にわたる奈良少年刑務所内での教育活動への尽力と功績に対して、平成29年に大阪矯正管区長より感謝状を授与される。全国13か所の刑務所を訪問し、受刑者に対し動機付け面接を行い回復へと導いている。一般社団法人 GARDEN 設立時より回復プログラムおよび施設運営に携わり、当事者性と専門性、愛情を持った支援を行い、多くの依存症からの回復者を輩出してきた。2017年よりワンネスグループ共同代表に就任。職員60名、クライアント140名に及ぶ日本最大規模の依存症回復支援施設の運営統括を行い、スタッフの育成にも力を注ぎながら、グループ全体の発展に尽力している。



メインプレゼンター
三宅 隆之

一般財団法人ワンネスグループ共同代表
一般社団法人 セレニティパークジャパン 代表、精神保健福祉士
国際問題ギャンブルカウンセラー認定委員会・認定カウンセラー (IGCC-1)
福島大学卒。ラジオ局ディレクターとして勤務するも、ギャンブルやアルコールへの依存がもて退職。2006年に依存脱却の歩みを始め、司法書士事務所勤務を経たのち、現在に至る。ギャンブルやアルコール依存症からの回復を通して得た経験をもとに、当事者や家族の支援を行うほか、全国各地で依存症についての理解を深めるための市民向けセミナーを開催。また、学校や企業における依存症予防・早期発見・早期対処をテーマにした講演も実施。最近では、IR(カジノを含む統合型リゾート)の国内導入議論が高まる中、問題ギャンブルについての予防教育や啓発活動を行っている海外団体との連携を深め、それらの知見をもとに国内関係者に対して提言を行っている。NCPG(全米問題ギャンブル評議会)会員、IGCCB(国際問題ギャンブルカウンセラー認定委員会)日本事務局長。



メインプレゼンター
オーバーヘイム 容子

一般財団法人ワンネスグループ副代表
フラワーガーデン代表
NADAI 認定全米薬物・アルコールインタベンションリスト
ICCE 認定リカバリーコーチ
薬物依存・摂食障害からの回復者であり、2児の母。18年にわたる、依存症回復支援業界での活動をベースに、現在、奈良県にある女性専用施設「フラワーガーデン」の代表を務める。回復支援においては、安全で安心、アットホームな環境が提供できるよう配慮し、ひとつの家族としての施設を運営。またそれぞれの方の状況、状態に適した回復プログラムを提供する。適切な判断と深い愛情のある行動力で、女性らしさ、人間らしさを引き出していくようにサポート。海外の依存症回復の専門家からも高い評価を得ている。施設以外でも、女子刑務所や少女苑に向向いて薬物離脱教育を実施するほか、高校など教育現場でも、薬物乱用防止の講演を行い、「どんな自分でも自信をもって『自分が好き』と言える自立した生き方」についてメッセージを送り続ける。依存症以外のさまざまな「生きづらさ」を抱える女性を支援するネットワークも積極的に構築しており、活動範囲も拡大中である。



ファシリテーター
矢澤 祐史

ギブネスインターナショナル 会長
Hero's Journey Conference Japan
オーガナイザー
見失ってきた“自分”を取り戻すために必要な勇気を心に受け渡すこと、魂に火をつけることを自らの使命とし活動を行っている。心理療法やリーダーシップの分野で卓越した専門性を持つ「生きる伝説」たちを日本に招聘し、その教養を共有するワークショップを年間を通し開催。人が本来持っている能力や可能性を引き出す場を作り、その人だけのヒーローズジャーニーをサポートすることは、矢澤祐史がもともと得意とするところであり、人生をかけたプロジェクトとなっている。生きる力を創造するために、人材育成の場のプロデュースを数多く手がけてきた。100人の社長をクリエイトするのが当面の目標。お互いのギフトを与えあえるギブネスできるメンバーシップを構成し、多岐に渡る分野で活動を続けている。また、各国の政府高官と並び、国連に準ずる政府間組織コロポラン ICCE においては、日本でただ一人の理事に就任。




ICCE
International Centre For Certification And Education Of Addiction Professionals

国際アディクション専門職認定教育センター

先進国による、最新の依存症研究成果やプログラムを、世界で同じように共有することを目指す国際機関。

2009年2月にコンボ計画の薬物諮問プログラムの資格認定部門として設立された。アメリカ国務省の国際麻薬・法執行局(INL)が運営する世界規模の取り組みにも関わる国際機関。アディクション回復支援を担う人材の育成や、資格認定に関して、全米アルコール・薬物カウンセラー協会からの全面的な協力を受けている。ICCEの主な目的は、先進国による依存症の最新の知見やエビデンスに基づく研究成果を、アジア太平洋地域に導入し、効果的かつ共通化されたプログラムを開発すること。またそのプログラムに基づいて、支援サービスを提供するカウンセラー、リカバリーコーチなどの人材育成にも努め、それら資格取得の運営も行っている。




IGCCB
International Gambling Counselor Certification Board

国際問題ギャンブルカウンセラー認定委員会

ギャンブル依存症者支援に特化したカウンセリング技術を開発、カウンセラーを育成し、公衆衛生に寄与。

IGCCBは問題ギャンブラー・ギャンブル依存症者とその家族に、回復支援サービスを提供するカウンセラーに対して、資質・能力を認定するためのプログラムを運営。IGCCBは依存症に関してアメリカおよび国際的に広く認められている認定資格である。ギャンブル依存症の研究者を中心に組織されているIGCCBは、米問題ギャンブル協議会(NCPG)と共同で認定試験の運営をしており、認定プログラムの中で、試験問題の開発や全体の方向性の決定を行っている。認定にはギャンブルに特化した研修と教育、実際にギャンブル依存症者を治療する臨床の場を監督するスーパービジョンのプログラムがあり、実践を非常に重視しているところに特徴がある。



NADAI
National Association Of Drug & Alcohol Interventionists

全米薬物・アルコールインタベンションリスト協会

依存症回復への架け橋であるインタベンションを広め、国内における専門家としての立場確立を目指して。

NADAIはインタベンションという職業の全米規模の職能団体。依存症を患っているものの、アルコールや薬物などの対象物を手放す意欲を持っていない当事者について、家族の了承を得て、間に入って積極的に働きかけ、回復の手段にたがかりやすくするインタベンション(介入)というプロセスをコーディネートする仕事である。日本の依存症の現場ではインタベンションという手法は、まだ認知度が低いが、アメリカでは回復に向かう効果の高い方法としてよく知られており、専門職としても確立されている。NADAIは同時に依存症に関わるプログラムカウンセラーやセラピストなどの多様な職務に関して、資格認定のプログラムを運営している。

【主催】NPO 法人名古屋ダルク 【共催】一般財団法人ワンネスグループ (名古屋・東京・奈良・沖縄)

【後援】法務省 愛知県 名古屋市 豊橋市 岡崎市 一宮市 春日井市 東海市 小牧市 稲沢市 西尾市 刈谷市 安城市 江南市 瀬戸市 半田市 北名古屋市 日進市 愛知県教育委員会 名古屋市教育委員会 愛知県精神保健福祉士協会 愛知県臨床心理士会 愛知県社会福祉士会 愛知県社会福祉協議会 名古屋市社会福祉協議会 中日新聞社 朝日新聞社 毎日新聞社 産経新聞社 メ〜テレ 順不同 敬称略